



学校だより 2月 第375号

令和4年1月31日 発行

横浜市立六つ川西小学校 (TEL) 742-6301 (FAX) 743-2394

URL <http://www.edu.city.yokohama.jp/sch/es/mutsukawanishi/>

「かがやき ひびきあう 未来へ」

学校長

「児童の対話的な学びを引き出す指導の手立て」をテーマとした今年度最後の授業研究会が1月27日に行われました。

6年生の国語は、本校の学校教育目標にある「かがやき ひびきあう自分たちの姿」を見つめ直し、他者とどのように関わりながら過ごすよいかを子どもたちが交流し、考えを広げたり深めたりする内容の授業でした。

担任から授業後にワークシートを見せてもらおうと、「他者の気持ちを聞きながら、自分の気持ちをしっかり伝えて過ごす。」「協力する。相手を知る。『自分を好き』を続ける。」など、人とのつながりや関わり方に目を向けながらも自分らしく前向きに生きようとする子どもたちの記述に多く触れることができました。

先日の朝会では、子どもたちに慶応義塾大学の前野先生の講演会で伺った「幸せをつかむ4つの方法」を紹介しました。幸福学の第一人者である前野先生は、10年後の学習指導要領に「人間学・幸福学」を取り入れたいと考え、幸せの4つの因子を提唱しています。

一つ目は「やってみよう」因子。意欲の高い人は幸福度が高く、自分に強みがあると子どもも大人もやる気ができるというもの。

二つ目は「ありがとう」(つながりと感謝)因子。多様なつながり、感謝、利他性、自己有用感が、大切な要因であるということです。三つ目は「なんとかなる」(前向きと楽観)因子。自分の強みを見つけてチャレンジできる環境や、つながりがあれば、前向きになれる。そして、四つ目が「ありのままに」(独立と自分らしさ)です。この四つの因子がともに高い人は、多様な仲間と共に生き生きわくわくとやりたい事を実現しようと、チャレンジングな生き方になり、結果的に幸せに生きることに繋がるということでした。

六つ川西小学校では、学校教育目標「かがやき ひびきあう 六つ西の子」の育成を目指し、教職員が一丸となって日々の教育活動に取り組んでいます。今年度は、まだまだコロナ禍が継続し、対話や人とのつながり方における課題が山積していますが、前述の子どもたちのように、私たち大人もみんなに対話をし、それぞれが主体的に自分の良さを見つけていきたいと思えます。そして、皆で助け合って挑戦していく事を通して、四つの因子を高め、子どもたちの幸せな未来を築いていかなければならないと強く感じています。

【令和4～6年度版中期学校経営方針を策定しています!】

教務主任:平井 章大

横浜市立小学校では、3年くくりの「中期学校経営方針」を策定しています。(今年度版についてはホームページでもお知らせしています)12月からは、次年度からの3年間、「かがやき ひびきあう 六つ西の子」という学校教育目標を実現していくために何に重点を置いて六つ西っ子を育てていくかについて、教職員だけでなく、六つ西懇話会(地域代表者・PTA代表者)の皆様と共に協議をしています。12月の懇話会メンバーとの協議では、子どもが「かがやく」姿、「ひびきあう」姿について、意見交換を行いました。赴任して1年目の私が一番強く感じたことは、地域・保護者の皆様からこの六つ川西小学校がとても大切にされ、愛されている学校だということです。そんな皆様の思いを受け、改めて目の前の子どもたちをしっかりと育てていきたいと強く思いました。

さて、現在学校評価アンケートをお願いしているところです。皆様から頂く学校評価アンケートも参考にさせていただきますながら中期学校経営方針を策定していきます。ご協力をお願いします。